

一教育賞 ペスタロッチ紹介 受賞者

In ひろしま 代表
パール学校建設支援協会マツダ 實 氏
松田

好き島に生まれた。歴史が
に広島市に進んだ。1965年に広島市に就任して
松山市立大学文学部史学科にて社会科教諭として
で、注石田学園山陽高等学校に。しかししながら、望ま
戻り、しばらく世界史を教えても高校を必ずしも3年、
する。三紛争のただなかで、大々直しのためには、1973年、
は学生育成環境にはなかった。立る広島経済大学に移り、
は学生育成環境にて同学園が運営することになる。その後、
いが就職支援を本業とす。社会人として考え
氏は記述の就職支援を本業とす。社会人として考え
大学生長をして学生部長を務め、これが15年も
就職支援を卒業生を送り出す学校建設している。この活
く業とともにネパールで作られている。この成
かしきれい。いまや101校目が開設され
た。本
の強い使命感に支えら
れること
続々と
動も止
が史を
あつた
世界が
がなが登りが好きだった。ど
た。Pが見てみたい。1987年
マラヤでネ
マラヤは美しかった。どうして
気持ちは極度に貧しかった。どうして
実際は彼らの姿が痛々しい。ルの現状を調べ
ひとびともできるか。氏は、ネパールのためには、低限の生活が保
運ぶ子に何がとがネパールのためにな
するこ地に住むからといって最もだからとい
山村僻い。わけがない。可愛そ手な自己満足でし
なくてを与えるだけでは、身勝のひとびとが貧し
い。美しい。植林の重要性を
苦しむか。
旅行の際に土砂崩れに遭を連れ立つて
きの旅行が
観光松田氏は、1992年に学生所として校舎の利用が
感したかう。植林作業の休憩場は黒板などな
へと向
許され

:15万円、校舎の修復による学校
トタン屋根が剥がれ落ちていたという。近親は字が
新しい校舎の建設に50万円かかるかもしれない。こ
へ行くには4時間かけて歩かねれば字を学ぶ漢字を学
読めないので、学校に行かないであり続けるれる。
きないのに。僻地の山村が貧困できるかもし
校建設によって断ち切ることが内に資金協力の条件を
れる。内に資金協力の条件を

松田氏は私財を投じ、日本国側には次の②学校完
支援を継続した。一方、ネパール側には次
供者がいる、(③識字
設定する。①建設土地の無料提
が派遣される、スタッフ
成後は、政府、自治体から教員
いる、⑤建設のだと
率が低い、④経済的に困窮して学校がほし自己満足
を明確にする、⑥村民が一致しは、支援側の条件であ
いう意欲を感じる。この6条件を見通しての
ではなく、相手側の自立と継続
ことが

はさまざまある、ご自
は活動を継続するためにげさせたこと安も悪く
あった。現地人に現金を持ち逃げ一時期は治れでも贊
助が病気で倒れたこともあったなかった。そ学生部長
なり思うように支援活動ができていった。今ネパー
同してください方が少しずつ増た。日本と違うことで
時代は敢えて学生を連れて行つとのために働からであ
ルを見る事で、また現地のひ確信していたなかった
何かしらを得るであろうことをることのできは何より
る。自分の小さな枠でしか考え方を見ることル学校建
学生が成長して社会で活躍するには「ネパー15年には
愉快であった。退職した2004年ち上げた。2005年には
設支援協会 In ひろしま」を立國王より勲章が完成し
成果が認められて、ネパール國まや100校目
た。多くのひとに支えられてい
り葉の屋
つつある。

にあっても木としては
ペスタロッチは「玉座の上
根の蔭に住まつても」(『隠者の
夕暮』)人間波は「周
だからこそ止めた
異なるはずがないと信じていたの源泉をせき力にそ
の民衆が陥っていたあの悲惨願い、教育の教育の
い」(『ゲルトルート教育法』)と使命感をもち、さにペ
の希望を託して努力し続けた。松田氏の姿はまこれま
力を信じて支援活動に携わる松田である。氏の贈呈
ペスタロッチの精神に通じるもの、
での功績に対し、第17回ペスタロッチ教育賞
し、高く顕彰したい。